

文京区立中学校部活動地域移行実施計画 2026（素案）の文教委員会における報告

1 部活動改革に対する区議会議員の受け止め

- (1) これまで学校教育の一環であるとされていた部活動が、今回教員の働き方改革の必要性など、学校の現場の実情に沿って、学校と部活動を切り離して、部活は学校教育ではなくなっていくという大変大きな方向転換だ。
- (2) 教員の負担軽減という観点では有効だが、課題もある。
- (3) 他の学校の生徒と一緒に活動できるなど、様々な可能性を含んでいる。教職員の負担軽減にも繋がるよう、生徒や教職員の意見をしっかりと聞きながらこの取り組みを進めていただきたい。
- (4) 現在、部活動は学校教育であるため教育委員会が所管している。しかし、学習指導要領から外れ社会教育分野となれば、所管が区長部局に移管し、民間も参加できるとなると、教育の大改革になる。子供たちには選択肢が増えるとか、可能性が膨らむとか、また教員の負担が減るなどのメリットがある。

2 受益者負担

- (1) 受益者負担として利用者に徴収していくのは、活動の場の保障という観点では違うのではないか。地域クラブの活動の財源は、しっかりと国に対して財源の確保を働きかけていくべき。

3 部活動が有する教育的意義

- (1) これまで、問題行動があるような生徒でも、部活動ではしっかり頑張っており、そのことを教員間で情報交換するなど、総合的に生徒を見守っていくという観点からも部活動は大きな役割を果たしてきた。
- (2) 部活でしか学べないようなこともあって、それは非常に大切な部活動の要素である。

4 指導者の育成

- (1) 保護者や生徒に信頼される指導者をどのように確保して、そして育成をどうするのかは課題だ。

5 大会への出場

- (1) 運動部活動は、年に2・3回の大会を目指して頑張ってきた。今後、地域クラブ活動化していった時に、大会への出場の仕方も変わってくるのではないか。

6 部活動の指導に情熱を燃やす教員

- (1) 部活動に熱心な教員も一定数いる。部活動が地域展開された時、そのような教員が引き続き指導に関われる仕組みがあるべき。